

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1 38 39 40 42	お一人おひとりの、その人らしさやプライバシー・自己決定の尊重を重視し入居者主体の生活の場を心掛けているが、時に見失ってしまっている場面があり、更なる工夫や意識の向上が必要と感じている。	理念やケア方針の更なる浸透、及び、個々のニーズやレベルに応じた実践力・意識の向上	ケアカンファレンスやOJTの機会を活かし、理念やケア方針の理解を深める。また、お一人お一人のレベルや状態から、病気の理解を深める機会とし、実践力の向上に努める。 ※ひもときシートやC-1-2、ふぁみりえケアプランなどのツールも、適宜活用。	12ヶ月
2	43 46	状態変化に応じて、その都度かかりつけ医やNs、スタッフ間にて情報の共有と連携を図り対応しているものの、アクトオブバランスの視点や、薬剤になるべく頼らないで済む様、更なる工夫や発想が必要と感じている。	理念やケア方針の理解を深めると共に、点でなく面で関われる環境となる	ユニット会議やケアカンファレンス、OJTの機会に、自己決定・本人本意を重視しながらも、対岸にある安心や安全の確保を忘れず、必要時には積極的なアプローチを行なっていく(特に食事・水分)事や、出来るだけ自然な形で排泄できるよう、個々の嗜好や習慣を考慮しながら、様々な工夫を凝らす事を、繰り返し伝え合い取り組んでいく。	6ヶ月
3	50	個々の力の発揮の場面づくりや、喜びや楽しみを感じていただける時間の過ごし方を工夫しているが、役割感や張り合い感を感じていただける程、主体的な場面・過ごし方になっていない。	日常生活の充実と共に、非日常的(旅行や外出)な取り組みも視野に入れた、個々のニーズの把握・実行力の向上	個々の力を発揮していただく場面づくりをより意識し、日常生活の充実を図ると共に、非日常的な取り組みが実現できるよう、個々の願いや想いの把握を意識しながら日々寄り添っていく。情報の共有は本人の声を記録に落とし、ケアカンファレンスや会議の機会に計画していく。	12ヶ月
4	54 55	一人ひとりの入居者にとって居心地のよい居場所になっているか。	居心地よい場所・団欒が持てる環境・身体機能や認知症の状態像に応じた環境作り。また、その環境が一時的なものとならない様、継続したものとしていく。	スタッフも環境の一部である事を、全スタッフがしっかり認識し、余裕のない時こそゆっくり・じっくり・しっかりと入居者に寄り添うことを、ケアカンファレンスやOJTの機会を通して繰り返し伝え合う。またハード面においても、日頃から臭いや整理整頓に気を配り、心地よい環境で過ごしていただけるよう取り組んでいく。	12ヶ月

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	スタッフ側の都合により、入居者の皆さんをコントロールしている場面がまだまだ見受けられる。生活のすべてを入居者の皆さんにお返ししていただけるような取り組みが必要である。	ふぁみりえの「理念とケア姿勢」に基づき、入居者の皆さんと共に暮らしを織り成す1つ1つの場面場面、1つ1つの言葉と行為(言動)を振り返り、意識し、1つ1つ丁寧に丁寧に積み重ねていく。	①ふぁみりえの「理念とケア姿勢」を個人学習や学習会を通して深く学ぶ。 ②学習内容を、日々の実践(場面と言動)に活かす(意識する)。 ③入居者の皆さんの人生史や生活歴・生活習慣を読み返すと共に新たに収集し、日々の暮らしの場面に活かす。 ④課題と目標に基づき、入居者の皆さんのケアプランを見直し、日々の暮らしの場面に活かす。 ⑤具体的な1つ1つの場面において、ご本人の意向を、具体的に確認すると共に、選択肢を用意する。	6ヶ月
2	50	入居者の皆さんの人生史や生活歴、趣味・趣向、得意な事を、皆さんの日々の暮らしに活かしてきれていない。入居者の皆さんにとって、役割と「楽しみ・喜び」(快)のあり、張り合いのある暮らしとなっていただけるような取り組みが必要である。	入居者の皆さんには、それぞれ人生史や生活歴・生活習慣、趣味や嗜好があり、得意分野(出番・役割)がある。そこをよく知ること、働きかけることを行ない、日々の暮らしの場面場面に活かしていく。	①入居者の皆さんの人生史や生活歴・生活習慣、趣味や嗜好、得意分野(出番・役割)を読み返すと共に新たに収集する。 ②担当者を中心にスタッフ全員に周知する。 ③課題と目標に基づき、入居者の皆さんのケアプランを見直し、日々の暮らしの場面に活かす。 ④「お声かけ」1つにも、よく考え、工夫を行ない、また、主体は入居者の皆さんであることを忘れずに、個性性を重視・尊重した関わりを実践(場面と言動)する。 ⑤楽しみにつながる行事を、ご本人・ご家族と一緒に計画・実践していく。	6ヶ月
3	55	入居者の皆さん、お一人おひとりに合わせた居場所や時間の提供がまだまだ不十分に感じる場面がある。また、時にはいつもと違った場所や、気が合う入居者同士で、その時間を満喫できるような、暮らしの工夫と支援、取り組みも必要である。	入居者の皆さん、それぞれのその時々々の体調、気分、思いや願いに合わせた居場所や時間を、できる限り提供できるように努力する。また、皆さんが主体的に選べるように、選択肢を増やす努力を忘れずに支援する。	①ふぁみりえの「理念とケア姿勢」に基づき、日々の実践(言動)を振り返る。 ②スタッフ各位が日々の皆さんとの暮らしの場面場面において、(きっと)特に意識することなく、実践しているコントロール(お決まりのパターン等)を意識できるように、ユニット会議・ケアカンファレンス等の場で、よく話し合い、チームとして改善に取り組む。 ③入居者の方々を左右する1番の環境要因はスタッフ自身であることをよく考え、実践(言動)する。 ④共用空間の整備(掃除、音、声、におい、照明・光、空間の有効利用、テーブル・椅子・ソファ等の配置等)を、常に意識的に行なう。	6ヶ月

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	54	共用の空間において、職員の発する音や声などが、時には入居者の不快や混乱になっている、または、可能性がある。	職員も”環境”の1つであるという事を十分に理解し常に自らの言動(声の大きさや足音など)に注意し、支援を行っていく。	①ふぁみりえの基本理念・ケアの10姿勢に基づいた自分自身のケアの振り返りを行う。 ②日々の中で職員同士による気付きや意見交換を行う。 ③ユニット会議で定期的に議題として、みんなで話し合う場(機会)を持つ。	6～12ヶ月
2	38	日々の対応の中で入居者の自尊心を傷つけるような言葉掛けや対応をしてしまっている事がある。	入居者の皆様は人生の先輩方ということをお忘れず、お一人ひとりを尊重し、意識しながら対応に当たっていく。	上記と同様。	6～12ヶ月
3	4	すべての職員一人一人が”運営推進会議”の意義や重要性を十分に理解していない現状がある。	職員全体が万遍無く積極的に参加できるようにし、運営推進会議の意義や重要性を十分に理解する。	日頃の入居者との会話などの中から入居者の希望や思いなどを汲み取り、しっかりと記録に残し、職員間で情報を共有する。それらの実現に向けて、当入居者と職員で運営推進会議で発表、会議メンバーの助言を頂きながら計画を立てると共に、地域とのつながりの大切さ、重要性を学んでいく。	6ヶ月